

<地理歴史・公民>科 学習シラバス

科 目		倫理	学年・コース	3 年生 紙のまちづくり	単位数	3 単位	教科書	倫理（数研出版）							
学習の到達目標			1 現代の諸課題を深く思索するための概念や理論を理解し、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。 2 自己の生き方について深く思索する力や、現代の諸課題の解決のために論理的に思考し、説明したり対話したりする力を身に付ける。 3 他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。												
評価の観 点	A 知識・技能			B 思考・判断・表現			C 主体的に学習に取り組む力								
評価の内容	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身につけている。			自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を身につけている。			人間としての在り方生き方に関わる事象や課題で主体的に追究したり、他者と共によりよく生きるを形成しようとしたりする態度を養うとともに、的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養された現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めている。								
評価の方法	・課題やノートの記述内容 ・単元小テスト ・定期考査			・課題やノートの記述内容 ・ワークシートの記述内容 ・定期考査			・課題やノートに対する取組方 ・ワークシートに対する取組方 ・教師による行動観察								
学期	月	単元名・小単元名		学 習 の 指 導 内 容				評 価 の 方 法							
								A	B						
1 学 期	4	第 1 章	さまざまな人間の心のあり方	人間の心理的諸機能や道徳判断の発達の理論、発達段階についての理論について理解する。 人間がどのように感じ、学び、考え行動するのかについて考察する。 人間にはどのような違いがあるのか、違いはどのように形成されるのか、その理論を理解する。 欲求や意欲と、自己実現や生きがいとの関わりについて考える。				○ ○ ○ ○							
		1	発達の心理学												
	2	認知の心理学													
	3	人格の心理学													
		4	感情の心理学												
2 学 期	5	第 2 章	さまざまな人生観 -源流思想-	ソクラテス・プラトン・アリストテレスなどが求めた国家のあり方や人間観について理解する。 イエスの教えや、その後の布教活動が、現代の社会にどのような意味を持つのか考察する。 イスラーム成立の歴史的背景やムハンマドの説いたイスラームの教えの内容を理解する。 ウパニシャッド、ブッダ、大乘仏教の思想が、現代の生活に与える意味について考察する。				○	○						
		第 1 節	古代ギリシアの思想												
	第 2 節	キリスト教													
	第 3 節	イスラーム													
		6	第 4 節	古代インドの思想		○	○								
		第 5 節	中国の思想		○	○									
3 学 期	7	第 3 章	さまざまな倫理観・世界観 -西洋近現代思想-	ルネサンスと宗教改革の二つの運動がヨーロッパの近代化に与えた影響について考察する。					○						
		第 1 節	理性への信頼と人間の尊厳												
	8・9	第 2 節	自然・科学技術と人間							デカルト・ペーコンやその後の経験論・合理論の立場に立つ思想家の主張について理解する。 社会契約説やカント・ヘーゲルの主張を通して、人権や自由の実現のための国家の役割について考察する。 ベンサム・ミルの功利主義、プラグマティズム、社会主義思想の主張について理解する。 実存主義の思想家の主張を理解し、そこから今の自分の生き方を問い直し、課題は何か考える。 自由の概念、ガンディーやシュヴァイツァーの思想や活動、ヒューマンイズムの意義について理解する。				○	○
	第 3 節	個人・社会と自由													
	第 4 節	民主社会の倫理													
	10	第 5 節	現代思想の流れ		○	○									
		第 6 節	現代社会と生き方			○									
4 学 期	11	第 4 章	国際社会に生きる日本人としての自覚	日本の風土が日本人の意識や心情の底流となっていることや古代の人々の宗教観や道徳感が理解できている。 日本における各時代での仏教の受容や定着、展開の意義と影響について考察する。 朱子学と陽明学の相違や古学派の主張、国学の思想内容などの特徴と時代背景が理解できている。 啓蒙思想・キリスト教などを中心とした西洋思想がどのように受容されたかを理解する。				○	○						
		第 1 節	日本の風土と古代日本人の考え方												
	第 2 節	仏教の受容と展開													
	第 3 節	儒学の受容と国学の発達													
		12	第 4 節	西洋思想の受容と近現代の日本の思想		○	○								
5 学 期	1	<現代の諸課題と倫理>		※第 1 節から第 6 節のうち、いくつかを選択して学習する。				○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○						
		第 1 節	生命をめぐる諸課題												
	第 2 節	自然をめぐる諸課題													
	第 3 節	科学技術をめぐる諸課題													
			第 4 節	福祉をめぐる諸課題											
		第 5 節	文化と宗教をめぐる諸課題												
		第 6 節	平和をめぐる諸課題												
6 学 期	2														
	3														
学習のポイント			・自分の意見や考えを具体的に表現し、積極的に発言できるようにすること。 ・日々のニュース・新聞をよく見て、社会事象全般に対する興味・関心を高めておくこと。 ・学習したことを生かして、よりよい社会の実現のために主体的に行動できるようにしておくこと。												

態度
について 自己 多面 れる、 いての
観 点
C
○ ○ ○ ○
○ ○
○
○ ○ ○
○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○